2016年
1月21日
物流ニッポン
9面

アイエヌライン／運輸安マネ決起大会

ゴール「事故・災害ゼロ」

若手教育強化　ハザードマップ作成

【大分】アイエヌライン（奈賀幾次郎社長、福岡県吉富町）は10日、大分県中津市でスローガン「未来へ飛翔！　めざすゴールは事故・災害ゼロ」を掲げ、2016年の運輸安全マネジメント総決起大会を開いた。安全推進委員会（中島正敏委員長）を中心に各チームが交通事故・労働災害ゼロに向け、安全対策の徹底強化に乗り出す。

川村秀章専務が「人を思いやる気持ちが安全への第一歩。交通事故・労災ゼロにつながる大会にしよう」と、8期目となる運輸安全マネジメントプロジェクトの始動を宣言。

安全運転5原則の唱和後、奈賀社長が「輸送のプロとして業界の地位を高める責任がある。『安全・品質はわが社の商品』を基本理念に、交通事故、貨物破損、クレームを1件でも減らそう。昨年1年間は軽微な事故が2件だった。今年はゼロを目指す」と檄を飛ばした。

更に、企業の社会的責任（CSR）や飲酒運転撲滅活動に触れ、「一人ひとりのモラルが安全な交通社会を築く。子供、高齢者など交通弱者を事故から守ろう。悪質なひき逃げ、高速道路の逆走事故が多発しており、防衛運転にも注力して欲しい」と呼び掛けた。

全員で「ゼロでいこう」と気勢を上げ、事故・労災防止への意志を確認

続いて、本社、各支店、各営業所、グループ企業が15年の安全活動を報告。専門家によるタイヤメンテナンス研修、救急救命講座の実績を説明したほか、全社目標の「速度超過ゼロ」の成果を発表した。

永年勤続や無事故、速度超過回数ゼロ達成、チームポイントなどの各表彰が行われ、奈賀氏から表彰状と記念品が贈られた。

チーム討議では、昨年の反省を踏まえて16年の事故防止目標を決めた。安全推進委員会を中心に全員参加による安全会議を開く。経営トップは率先して安全推進活動に取り組む。

20、30代の若手ドライバーの事故防止教育を強化するため、輸送ルートの事故多発地点、現場での荷役作業の注意箇所をまとめたハザードマップを作成する。運転未経験者の初任教育にも活用し、若手ドライバーの確保と育成に役立てる。

最後に、小野聖司常務が「トラックは国内物流で重要な社会的役割を果たしている。その使命をしっかりと認識し、事故防止に取り組もう」と閉会を宣言。

全員で「ゼロでいこう」と気勢を上げ、交通事故・労災防止への意志を確認した。

（上田慎二）